

子どもの森保育園令和 6 年度における自己評価

《 4 段階評価です》

評 価 日：2025/03/31

対象保育士： 8 名

- A：たいへんよい
- B：よい
- C：一部検討を要する
- D：改善を要する

項目	評価	取り組み状況
保育の理念・方針・目標を理解している	A	ほぼ全員がA評価であり、よく理解して業務にあたっている。内部研修を充実させている成果の表れと思える。しかし、前回課題としてあげたこれらの目標に基づいた保育実践ができたかどうかの項目を入れられなかった。大きな反省である。次回から必ず実施したい。
保育について（保育計画・指導計画・保育の方法・保育の内容）	B	ほぼ全員がAまたはBだが、一部、季節の草花を飾るなどの季節感への配慮の面でC評価判定があった。実践力を磨く為の研修の重要性を感じているが、さらに、徹底した強化が必要であろう。
健康管理・食育について	A	「調理担当者との子どものコミュニケーションを図ることについて」の項目で、一部にB評価判定があるが、その他はほぼ全員が全項目A評価の判定である。両部門でさらなる密接な連携体制がつかれるよう努めていきたい。
行事について	A	ほぼ全員が全項目ともA評価判定である。しかしながら、「行事のねらいや計画性」の項目について昨年に引き続き、一部のB評価判定があった。このことは、職員全員へ浸透したPDCA実践の環境づくりを強化する取り組みが残されていることを感じた。
運営管理について	B	前回に引き続き、「会議の効率的進行」や「職員相互がそれぞれ全体的な立場を理解し協力」の項目についてB評価や一件のC評価判定がある。前回の課題がそのまま残されているという結果であろう。チーム力を育てる取り組みについて全職員で話し合う必要がありそうだ。
保健・安全指導について	A	前回より多くの項目で改善された評価をしている。しかしながら、「事故や災害マニュアルをすぐ見れるような対応をしているか」の項目の件で1件だけD評価判定がありその他はAまたはB評価判定であった。これはマニュアルの置き場所の周知徹底がなされていないことを示しており、機会あるごとに周知に努めたい。
研修・研究について	B	前はほとんどの項目、ほとんどの保育士でA評価だったが、今回はB評価が多くなり、一人については内外研修の充実と研修報告の面でC評価判定としている。そのため全体的にB評価判定となった。これは、本園での研修体制は比較的保護者の仕事がお休みが多い曜日を狙って時間設定しているが、前年度は研修班と保育班の二手に別れてしまう頻度が多かったことによるものと思われる。改善策を考えたい。
情報管理・発信について	A	一人の保育士を除いて全員が全項目についてA評価である。そのお一人については全項目ともB評価判定としている。この方は自身で選択したパート勤務であるため、情報管理・発信の機会が他と比べて少ないにも関わらず、それでもB評価判定をしたのではないかと推測している。もし、有難いことにご本人としてはその機会が得られることを望んでいるのであれば前向きな話し合いをしたい。そして、全体的にさらに磨き上げていきたい。
施設設備の安全点検・掲示板等の有効活用について	A	この項目も上記と同じく、一人の保育士を除いて全員が全項目についてA評価である。そのお一人については全項目ともB評価判定としている。この方は自身で選択したパート勤務であるため、施設設備の安全点検・掲示板等の有効活用機会が他と比べて少ないにも関わらず、それでもB評価判定をしたのではないかと推測している。そして、全体的にさらに磨き上げていきたい。
保護者支援・開かれた保育園づくりについて	B	保護者支援についてはほぼ全員が全項目ともA評価であるが、おひとりについてC評価である。保育参観時の有効活用の面と子どもの送迎時の有効活用の面で一部検討を要しているようだ。職員に対する的確な支援の必要性が感じられる。また、開かれた保育園づくりについては、前回の課題事項がそのまま手付かずのままになっている。

総評

今回が2回目の自己評価となる。前回の自己評価で「保育職員自身が保育を見直し今後のより良い保育実施に向ける良い機会となっただけでなく、園全体での運営で取り組むべき課題が浮かび上がったことは大変役立った。」と述べた。しかしながら、結果的に前回の課題がそのまま手付かずの状態を持ち越しになってしまっていることは大きな反省事項である。振り返ると、職員相互及び職員との話し合いを進める取り組みを始めたことには間違いはないが、途中で、挫折してしまったというのが正直なところだろう。このような課題に対して取り組むリーダーシップが試されたと言える。「七転び八起き」という言葉がある。「まだ、1 回だけではないか。」で臨む心境です。